

Hiroaki Miyahara



女性宅に積み上がった箱の一つから見つかった預金通帳(右)。このほか、室内のあちこちから印鑑や不動産の権利証などが見つかった

Column

遺品整理

貴重品が見つからない！
遺族のことも考えておこう

東

京都内の公営団地。今年1月、その一室で40年近く一人暮らしをしていた80代の女性が孤立死した。警察の連絡で駆け付けた遺族は室内を見

て仰天したという。3DKの室内いっぱい、物やごみが天井近くまで積み上がっていたのだ。

「定期的に会っていたが、部屋がごみ屋敷のような状態だとは知らなかった」と、女性の遺族はため息をつく。ため息の理由は膨大な遺品の処分だけではない。実は、女性は多額の株式や複数の賃貸用マンションを所有する資産家。ところが、部屋からは預金通帳や印鑑、不動産権利証を何一つ見つけることができなかったという。

遺族から遺品の処分と貴重品の搜索依頼を受けた遺品整理最大手、キーパーズの吉田太一社長は「一人暮らしの高齢者が増える中、葬式代に加え、遺品整理のお金も生前から用意しておかなければ、遺族を困らせることになる」と話す。家1軒分の遺品整理となると、無数にあるビニール袋や封筒の中身まで調べる貴重品の搜索費や、廃棄物の処分費、部屋の清掃費な

故人の性格が如実に表れる

貴重な遺品が見つかるポイント

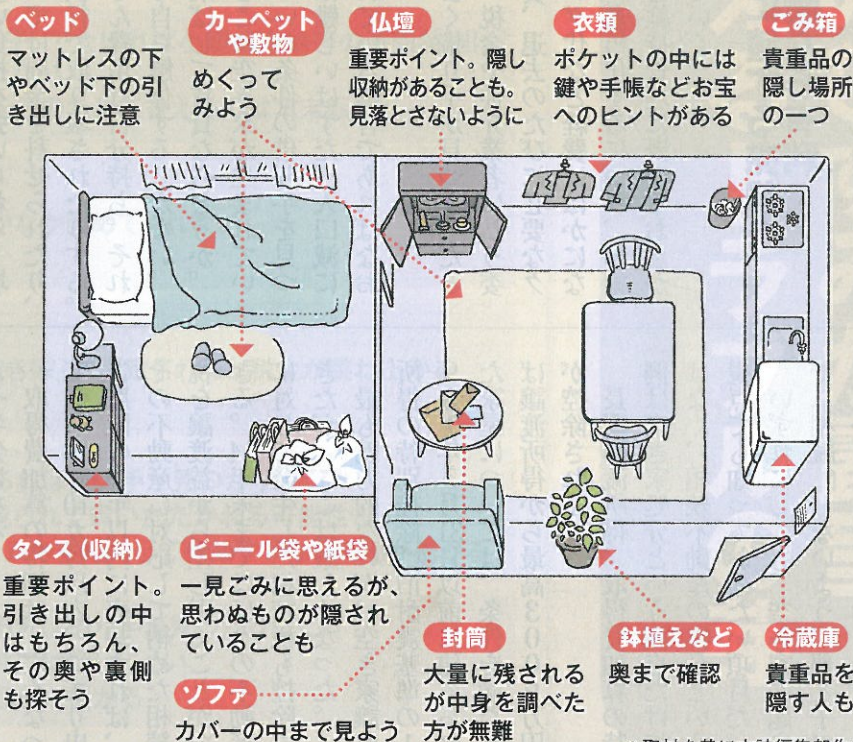


Illustration by Hitoha Sumi

*取材を基に本誌編集部作成

どで、当然ながら通常の引っ越しより高額になる。ごみ屋敷の場合のような数日にわたる作業では、費用が100万円を超えることも。だからといって、遺族だけでやろうとすると、膨大な労力がかかる上に、ごみと間違えて貴重品まで捨ててしまうこともあり得る。

同社の事例では、5000万円近い現金が、無造作に置かれた紙袋の中から見つかったケースや、湿布薬の包装紙に預金通帳が隠されていたケースもあるという。図は遺品整理の際に、貴重品が見つかることの多い場所。自力で探す際の参考にしてほしい。